

## 20. おわりに

現在、国等から発表されている、活断層による地震や海溝型地震の発生確率の多くは数パーセントと、とても小さな値に見えます。しかし、この小さな値は決して安全を示す数字ではありません。さらに、地震は、たとえ発生確率が低くても、いったん発生すればその被害は甚大なものとなる可能性があります。

地震について考える際は、発生確率で安心することなく、地震が発生した場合の被害の大きさも考え合わせることが不可欠です。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震という巨大地震により多くの尊い命が失われました。千年に一回発生するとされた地震、一生のうちに遭わない確率の方が高い地震が、我々が生きている間に発生したのです。

今を生きている私たちにとっては、発生したことが事実であり、「今後もまた発生することがある」ということを認識して、未来の安全・安心な生活を守るために、いつ発生するかわからない大規模地震に対してもしっかりとした備えをしていかなければなりません。

そこで、今回の調査では、確率は低い、または、不明かもしれませんが、東北地方太平洋沖地震が発生した現実を踏まえ、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を想定しました。

本報告書は、県が行う地震防災対策に活用することはもちろんですが、市町村をはじめ関係機関や企業における地震防災対策、県民の方々による地震への備えに役立てていただくことを期待しています。

今後、県では、この群馬県地震被害想定調査により想定された人的被害等の結果を踏まえて、地震による被害を軽減するための数値目標を「減災目標」として定め、この「減災目標」を達成するために、県・市町村・県民等が一丸となって取り組むべき対策を盛り込んだ「群馬県地震防災戦略」を策定し、より一層効果的な地震防災対策を戦略的に推進していきます。

この調査は、群馬県地震被害想定調査検討委員会の委員より、専門的見地から御意見、御指導をいただきながら実施しました。

また、調査実施にあたり、国、市町村、ライフライン関係各社、交通施設関係各社、通信事業者、大学、研究機関、庁内関係課から貴重なデータの提供を受けました。

ここに記して、感謝の意を表します。

群馬県地震被害想定調査検討委員会 委員名簿

氏名	所属・役職	専門分野	備考
鵜飼 恵三	群馬大学大学院 工学研究科 教授	地盤工学	委員長
河西 良幸	前前橋工科大学大学院 工学研究科 教授(～平成24年3月31日) 一般財団法人 群馬県建築構造技術センター 理事	建築構造学	副委員長
片田 敏孝	群馬大学大学院 工学研究科 教授	災害社会工学	
若井 明彦	群馬大学大学院 工学研究科 教授	地盤工学	
熊原 康博	群馬大学 教育学部 准教授	自然地理学	
関澤 愛	東京理科大学大学院 国際火災科学研究科 教授	都市・建築 防災工学	
萩原 隆嗣	前橋地方気象台 防災業務課長	気象	平成24年4月1日～
小高 昇			～平成24年3月31日
高草木 正司	群馬県警察本部 警備部長	警察	平成24年3月15日～
佐藤 成尚			～平成24年3月14日
笹森 秀樹	群馬県 県土整備部長	行政	
榛沢 保男	群馬県 総務部 危機管理監	行政	